



D. K. Lee

李東建
2008-09年度国際ロータリー会長



No. 7

Takasago Rotary Club

週報

高砂

クラブ会長方針

- ①ロータリーを楽しもう
- ②子どもたちが幸せになるために
- ③友愛奉仕活動を実践しよう
- ④ロータリーの綱領を実践する

例会記録 (2008. 8. 22 (金)) 通算2,722回

◆開会

◆唱歌

ロータリーソング (我等の生業)

◆ゲスト紹介

高砂プロバスクラブ

会長 高木 定三 様

副会長 坂手 優 様

幹事長 吉金作治郎 様



高砂プロバスクラブ会長 高木定三様



高砂プロバスクラブ 左から
会長 高木定三様、副会長 坂手優様、幹事長 吉金作治郎様

◆プログラム予定

8月29日 (金)	9月5日 (金)	9月12日 (金)	9月19日 (金)
早朝例会 「仏教体験」 西田会員	卓話 片岡 正 会員	クラブアッセンブリー ガバナー補佐 藤本 定男 様	高砂青松R.Cとの 合同例会 於 高砂神社

◆出席報告

本日 8月22日 会員数50名 欠席者9名 出席率 80.43%
前々回 8月 8日 会員数50名 欠席者0名 出席率100.00%

◆MAKE-UP

○佐野 敏晴会員 高砂青松R.C 8月13日
○作田 慎治会員 高砂青松R.C 8月13日
○佐藤 純三会員 e-C L U B 8月18日
○西田 秀雄会員 e-C L U B 8月22日
○叶 敏次会員 e-C L U B 8月21日
○伊地知正治会員 e-C L U B 8月21日
○片嶋 純雄会員 e-C L U B 8月20日

◆S. A. A. (ニコニコ箱報告)

砂川 次善会員……出席100%祝いを頂いて。

坂牛 八州会長……高砂プロバスクラブの高木会長、坂手副会長、吉金幹事長様ようこそ
おいで下さいました。本日は、ゆっくり楽しんで下さい。

永野 力会員……高木会長、坂手副会長、吉金幹事長様ようこそいらっしゃいませ。

坂手 優様……妹尾会員がお世話になります。

早退2名

◆幹事報告 (2,722回)

◎例会場のマイクが覚野会員のお陰でワイヤレス化されました。

◎市内7クラブゴルフコンペ&懇親会の案内が届いています。多数の方のご参加をお願いします。

◎ガバナー事務所よりGSEプログラム実施報告書が届いています。

◎「日本ライトハウス展—全国ロービジョンフェア2008」の案内が届いています。

◎熊本グリーンロータリークラブより「ロータリー情報最新版」予約受付の案内が届いています。

◎加古川健康福祉事務所より「薬物乱用防止」に関する寄付についてのお礼状が届いています。

◎日本ライトハウスより、年報、会報が届いています。

◎入会3年未満の会員に「たのしいクラブライフのために」というアンケートの依頼が来ております。無記名ですので忌憚のない意見をお願いします。また、9月27日(土)にクラブ奉仕セミナーが行われますので、是非ともご参加をお願いします。

※例会変更のお知らせ

◎高砂青松R.C 9/ 3 (水) → 9/ 6 (土) マーチング・イン・高砂
9/17 (水) → 9/19 (金) 合同例会

◎加古川R.C 9/23 (火) → 休会

◎加古川平成R.C 8/27 (水) → 8/30 (土) 納涼例会

◎明 石 西 R.C 9 / 1 8 (木) → 月見例会

1 0 / 2 (木) → 休会

◎明 石 北 R.C 9 / 3 0 (火) → 9 / 2 4 (水) 移動例会

◆世界社会奉仕ワークショップより 8月23日(土)

世界社会奉仕について

森田道太郎 (WCS 委員、西宮甲子園 RC)

世界社会奉仕 (以下 WCS : World Community Service) とは、文字通り「日本国内の社旗奉仕 (Community Service) の枠を広げて、世界を舞台に実践する活動」と解釈しています。自分たちの地域社会にもニーズが多いのに、なぜ他国の人々を援助するのでしょうか。もちろん国内の社会奉仕は重要です。しかし次の視点で見ると、WCS は一層大きくて広い恩恵を他人のみならず自分にも及ぼしてくれるのです。すなわち、

1. 社会基盤のほぼ整った日本とは比較にならないほど困窮を極めた地域や階級のある国が、アジアやアフリカに多い。自然と手を貸したくなる (Lend a Hand 2003-2004 R I 会長 Jonathan Majiyabe)。
2. これらの国では、日本円の価値が非常に高く、国内で行う 10 倍以上の内容のプロジェクトが実施できる。(効果甚大)
3. 実施国のロータリークラブ (以下 RC) が参加する案件では、現地のロータリアン達がプロジェクトの進捗や完成の確認のみならず、その後のフォローもしてくれるので、実のある国際協力が可能となる。
4. プロジェクトの現場を訪問すると、その国のロータリアンとの対話や視察を通して、国際理解が深まる。
5. その国の RC やロータリアンとの国際親善が実現する。
6. プロジェクトを実現していくことにより、参加者全員は自信を持つと共に充実感も味わえる。
7. プロジェクト資金に、ロータリー財団 (以下、TRF : The Rotary Foundation) の補助金 (マッチング・グラントや 3-H 補助金) を活用すれば、各 RC が拠出する金額だけよりもかなり大規模案件が実施できる。なおこれら補助金は WF (世界基金) 勘定なので、間接的に全世界のロータリアンの国を超えた善意が活かされる。

これだけの妙味が味わえるのも、ロータリーという国際組織が持つ基金規模と人材ネットワークのお陰であり、まさにロータリアンの冥利に尽きるといえるでしょう。

次に WCS の魅力を効果的に引き出す仕組みについて考えて見ましょう。

1. プロジェクトを探す

他の RC の支援を求めようと、多くの RC が地元地域の奉仕活動を R I ウェブサイトに登録しています。WCS プロジェクト交換データベースに (<http://www.rotary.org/programs/wcs/projects/database.html>) アクセスすると、40 カ国以上数百件が検索できて、その中から関心を持つ案件を選ぶことができます。ただし登録されている案件に対し TRF が財政面、技術面あるいは相手の RC の信頼性を保障しているわけではありません。(あくまで、各 RC が独自で信頼性を確認することが前提です。)

この問題をクリアするため、当地区の WCS 小委員会は、新年度初めに信頼できる地区の RC から提示された案件を全 RC に開示し、適宜選択してもらう方式を定着させました。これらの案件は、現地社会の要請を受けて、その地区と RC が提案してきた、いわば「地元のニーズの高い」案件ばかりなのです。

2. プロジェクト資金を集める

資金は、スポンサーとなるRCや地区が主として国際奉仕予算の中から捻出する寄付金でまかなわれます。もし、実施国など他地区のRCが寄付に参加してくれば、より大きなプロジェクトが実施できます。

その上、実施国を含む2カ国以上のRCや地区が関与するプロジェクトには、TRFより補助金が支給されます。もちろん支給を受けるためには、一定の条件が課せられます。例えば、マッチング・グラント（MG）の場合、不動産購入やロータリアンがそのプロジェクトの受益者になることなどは禁止されています。また、所定の算出方法で計算したMGがUS\$5,000以上になることが必要です。この他にもっと大規模で長期間にわたるプロジェクトに対しては「保健・飢饉追放および人間性尊重（3-H）補助金」という仕組みもありますが、これにはTRFの非常に厳しい審査が入ります。

TRFは補助金に関する条件や申請手続きを、その時どきの状況に応じて毎年のように変更してきます。最新情報はTRFウェブサイト（<http://www.rotary.org/foundation/>）に記載されています。

3. 現地を訪問する

プロジェクトを選ぶ段階から完了するまでのいかなる時点でも、最低1回は現地を訪ねてみましょう。まず、現地訪問で有難いのは、その地のロータリアンの温かい心遣いにより、不案内の土地での不安が解消することです。そして彼らと接することで、その土地の事情がよく理解できるうえに、親睦が深まります。プロジェクト完了時には、ほとんどの場合、竣工式や贈呈式などに招かれます。真に地元役に役立つプロジェクトの場合、大勢の現地の人たちの温かい歓迎が待っています。このとき改めてWCSの深い意義を実感できるでしょう。機会があれば、その後も訪問して自分の協力でやり遂げたプロジェクトが地元社会に及ぼした影響などを冷静に観察し、今後のWCS活動に活かすことも必要でしょう。

4. WCS小委員会を活用する

言語のみならず、習慣や宗教の異なる国と付き合うのに、気が重いと感じるのは当然のことです。また、補助金申請などで分からないこともあるでしょう。そんなときは、地区のWCS小委員会が相談相手になってくれます。一緒に考えたり悩んだりするうちに、心理的不安は軽減するし、WCS委員の励みにもなるでしょう。どうか大いに活用してください。

最後にひとこと。ここでは申請手続きなどの詳細説明は省きました。上記のTRFウェブサイトや手元の要覧などを参考にするか、WCS小委員会に照会してください。しかし、他の奉仕活動と同様、WCS活動の主体と責任は、あくまでも各RCが持っているのです。

皮肉な表現ですが、地区WCS小委員会の本当の仕事は、将来この小委員会自体の存在意義がなくなるように努力することなのです。

◆会長の時間

北京オリンピックも たけなわで ソフトボール「金」すごいですね。

8月8日の会長の時間では、「参加することに意義がある」と申し上げ、メダル獲得に冷ややかな発言をしましたが、やはり、日本がメダルを獲得すると、大変うれしいのが本音であります。

今日は久々の植杉会員の卓話ということで楽しみにしておりました。植杉さんは高砂ロータリークラブに入会され、今年で54年になられます。米国シカゴでロータリーが誕

生して、103年ですからその半分以上の年月の間ロータリアンであるわけです。もう少しお話させていただくと、入会されたのが1953年9月23日（昭和28年）で、39歳の時、何と桂田、佐藤会員さんたちが誕生された年なのです。そして、高砂ロータリークラブが日本で99番目のクラブとして4月1日誕生しました。植杉さんは会員増強の第1号として9月に入会されたわけですので、設立当初のガバナー訪問をはじめとするほとんどの年間行事を経験された訳です。

「ロータリーの友」に毎月掲載されていますが、2008年3月31日で国際ロータリークラブは200カ国以上に広められ、32,943クラブ、会員総数1,224,168人、そのうち日本では、5月31日現在で北は北海道から南は沖縄までのクラブ数2,314、会員数97,822人で減少傾向といわれながら、クラブ数は増え続けています。

今日は植杉会員のこと、ロータリーのことなど考えながら、20年程前、高齢者委員会という委員会があって小笠原廣吉さんが委員長をしておられ「色即是空花ざかり」という冊子をまとめられたのを今日お持ちしました。現在この委員会が無くなったのは、今日ゲストでおいでのプロバスができたからではないのかな、と思ったりしております。その冊子に、知る人ぞ知る有名なサムエル・ウルマンの「青春」という詩が掲載されており、その冒頭に「青春とは人生のある期間ではなく、心の持ち方をいう。・・・」とあります。いつまでも青春でありたいものです。

◆本日のプログラム

卓話 「健康で長生きするために」

植杉安夫会員



1. 一日に一回汗をかく。約40年継続。今はゴルフの打球。
2. 身体のどこかが悪いと思ったら、すぐに受診し対応する。
3. 気にかかる事は、その日の内に解決するように努め、翌日に持ち越さない。
4. 家族、隣人等人間関係を大切にする。特に友人をつくることに努力をする。
曜日時間を決め喫茶店で逢う。現在2組。
5. 趣味を持つ。相手がいること（囲碁）一人で出来ること（模索中）。
6. 何でも食べる。牛乳、バナナ、ラッキョ、小魚は欠かさない。
7. 努めて声を出す。風呂の中で大声で歌う。人との対話に努める。
8. 自動車の運転 → 毎日乗る。緊張感の維持。行動範囲を広める。
9. 行動には何時でも目的意識を持つ。
10. 何事でも善意に解釈し、喜びと感謝の気持ちを持つ。
11. 晩酌は350ccのビール1本、禁煙は70才から。

会長 坂牛 八州 幹事 守光 隆
例会日時 毎週金曜日12時30分より
高砂ロータリークラブのホームページのURL

雑誌会報委員長 田中 泰生
例会場 高砂商工会議所2階会議室
http://www.winwin.ne.jp/~takasago_rc/